

幸手市

地震

ハザードマップ

地震ハザードマップについて

地震ハザードマップとは、地震災害に関する情報と避難方法などを市民の皆様へ提供するにより、日頃からの防災意識を高めるとともに、いざという時の避難行動が、安全かつスムーズに行われて、被害を最小限にすることを目的とした地図です。

幸手市への影響が大きいと想定される地震の震度をともに、「揺れやすさ」「液状化可能性」「建物全壊率危険度」を示した地図を作成し、これを「地震ハザードマップ」としています。



幸手市マスコットキャラクター さっちゃん

市のホームページにもマップを掲載しています。



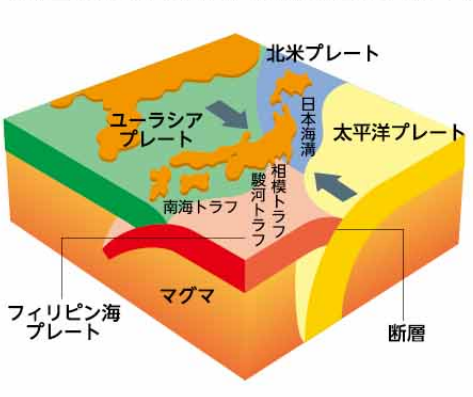
発行：令和4年3月
企画・制作：危機管理防災課 〒340-0192 幸手市東4-6-8
電話 0480-43-1111(代) FAX 0480-43-6033 E-mail:bousai@city.satte.lg.jp

印刷：(株)中央オマックス

地震のメカニズム

地震発生のしくみ

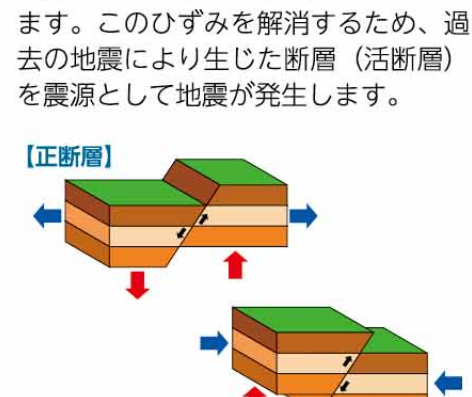
■日本周辺のプレートの状況
プレートどうしが接触しているところ(二つの面の境界)を断層といいます。



■海溝型地震
海洋側のプレートの潜り込みにより大陸側のプレートが引きずり込まれ、境界にひずみがたまり、限界を越すと元に戻ろうとすればね上がり、地震が発生します。



■活断層型地震
陸地の地殻もプレートの運動によりたるところで「ひずみ」が生じています。このひずみを解消するため、過去の地震により生じた断層(活断層)を震源として地震が発生します。



■マグニチュードとは？
マグニチュード(以下Mと表記)は、地震の規模を表す単位です。

関東大震災はM7.9、阪神・淡路大震災はM7.3、東日本大震災はM9.0(日本観測史上最大)でした。Mが0.2大きくなると地震のエネルギー規模は約2倍に、またMが1大きくなると約32倍になります。

■マグニチュードと震度の関係
マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで、机の上の明るさは異なります。このように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が違えば震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。

また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。

■震度とは？
震度は地震の際の各地点の揺れの大きさを表します。ある地点が実際にどう揺れるかは、地震のエネルギー規模だけでなく、震源からその地点までの距離、地盤条件等に左右されます。

■震度とマグニチュードの関係
マグニチュード(以下Mと表記)は、地震の規模を表す単位です。

■震度とマグニチュードの関係
マグニチュードと震度の関係は、電球の明るさと机の上の明るさの関係に例えられます。同じ電球からの光でも、机がどの位置にあるかで、机の上の明るさは異なります。このように、マグニチュードが同じ地震であっても、震源が違えば震度は小さく、震源が近ければ震度は大きくなります。

また、地盤の質の違いによっても、震度の大きさは左右されます。

地震の揺れと想定される被害(気象庁震度階級表により作成)

震度0	人は揺れを感じない。
震度1	屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。
震度2	屋内にいる人の多くが揺れを感じる。つり下がっている電灯などがわずかに揺れる。
震度3	屋内にいるほとんどの人が揺れを感じ、棚の食器が音を立てることがある。
震度4	眠っている人のほとんどが目覚まし、部屋の不安定な置物が倒れる。歩行中の人も揺れを感じる。

震度5(弱)	家具の移動や、食器や本が落ちたり、窓ガラスが割れることがある。
震度5(強)	タンスなど重い家具や、外では自動車売機が倒れることがある。自動車の運転は困難。
震度6(弱)	立っている人の多くが難しい。壁のタイルや窓ガラスが壊れ、ドアが開かなくなる。
震度6(強)	立っていられず、はわないと動くことができない。重い家具のほとんどが倒れる。
震度7	自分の意志で行動できない。大きな地割れや土すべり、山崩れが発生する。

震災時の注意点

地震発生その時どうする

■まず身の安全を
頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠します。家具の転倒や落下物には十分に注意します。



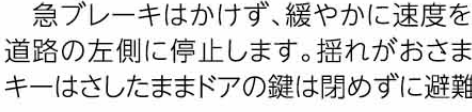
■あわてて外に飛び出さない
外ではガラスや瓦などが落ちてくる可能性があります。冷静に状況を判断します。



■人が大勢いる施設では
あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。



■自動車運転中は
大きな揺れを感じたら、あわててスピードを落とさず、ハザードランプを点灯させてまわりの車に注意を促します。急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左側に停止します。揺れがおさまったら、キーはさしたままドアの鍵は閉めて避難します。



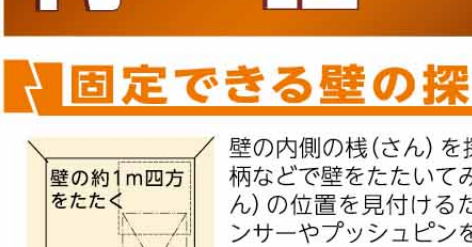
■路上や街中にいた場合
ブロック塀や自動販売機の転倒、看板や割れたガラスの落下に注意します。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手を頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。



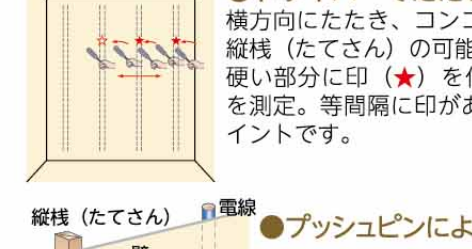
■エレベーターでは
ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。



■鉄道・バス乗車中は
つり革や手すりにつかり、乗務員などの指示に従って落ちついて行動します。



■落下ついで火の元確認
揺れがおさまったらあわてずガス器具やストーブなどの火を消し、元栓を閉めます。



■近くにはケガ人がいたら
地域ぐるみで助け合い、救出活動や応急処置に協力します。お年寄りや身体の不自由な人、けが人などに声をかけ、みんなで助け合います。



■周囲の状況に応じて
■人が大勢いる施設では
あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。



■路上や街中にいた場合
ブロック塀や自動販売機の転倒、看板や割れたガラスの落下に注意します。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手を頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。



■エレベーターでは
ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。

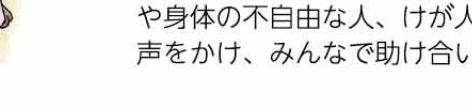


引用：地震による家具の転倒を防ぐには(勤務者援助センターホームページ)

■戸を開けて出口の確保
揺れでドアが開かなくなることもあります。玄関、部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保します。



■あわてて外に飛び出さない
外ではガラスや瓦などが落ちてくる可能性があります。冷静に状況を判断します。



■人が大勢いる施設では
あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。



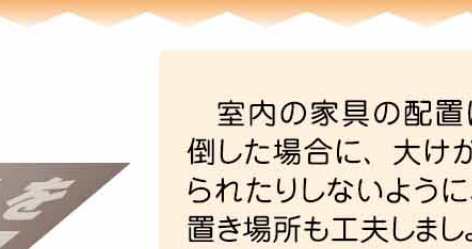
■路上や街中にいた場合
ブロック塀や自動販売機の転倒、看板や割れたガラスの落下に注意します。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手を頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。



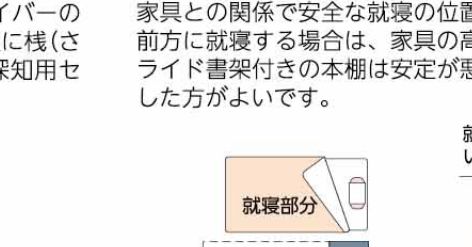
■エレベーターでは
ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。



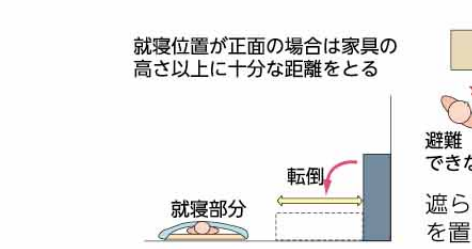
■鉄道・バス乗車中は
つり革や手すりにつかり、乗務員などの指示に従って落ちついて行動します。



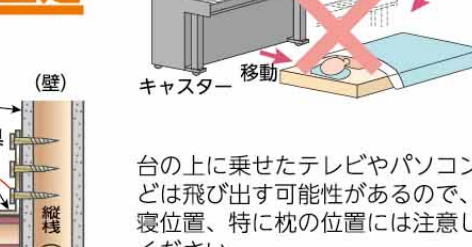
■落下ついで火の元確認
揺れがおさまったらあわてずガス器具やストーブなどの火を消し、元栓を閉めます。



■近くにはケガ人がいたら
地域ぐるみで助け合い、救出活動や応急処置に協力します。お年寄りや身体の不自由な人、けが人などに声をかけ、みんなで助け合います。



■周囲の状況に応じて
■人が大勢いる施設では
あわてて出口に走り出さないで、係員の指示に従って落ちついて行動します。



■路上や街中にいた場合
ブロック塀や自動販売機の転倒、看板や割れたガラスの落下に注意します。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手を頭を守り、近くの公園や広い場所に避難します。



■エレベーターでは
ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降ります。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求めます。

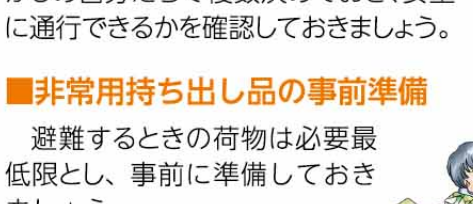


引用：地震による家具の転倒を防ぐには(勤務者援助センターホームページ)

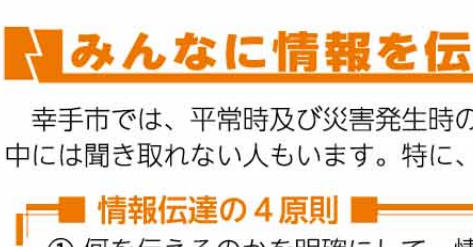
災備書

日頃からの備え・避難時の心得

■安全な避難経路の確認
避難場所までの経路(避難経路)は、あらかじめ自分たちで複数決めておき、安全に進行できるかを確認しておきましょう。



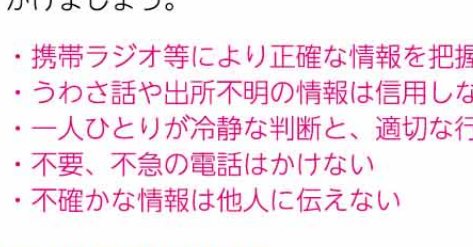
■非常用持ち出し品の事前準備
避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきましょう。



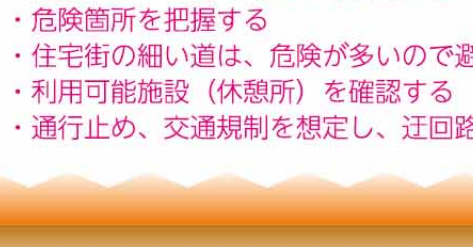
■みんなに情報を伝えるためには
幸手市では、平時時及び災害発生時の情報伝達体制を確保し、市民の安全を守るため防災行政無線による放送を行います。中には聞き取れない人もいます。特に、耳が不自由な人、高齢者、外国人には配慮が必要です。



■情報伝達の4原則
①何を伝えるのかを明確にして、情報の優先順位を考えましょう。
②いつ、どこで、なぜ、どのように)を明確にして分りやすい内容にしましょう。
③正確な情報だけ伝えましょう。
④情報の出所を明確にしましょう。



■帰宅経路を考えると
徒歩による帰宅ルートは平時時に確認しておきましょう。



インターネット等を利用した情報収集

災害時に備える 防災知識をインターネットで入手

幸手市ホームページ 市の防災情報	防災・危機管理 e-カレッジ 災害の備えや防災知識などを学ぶことができます
イソモ防災	Yahoo!防災速報

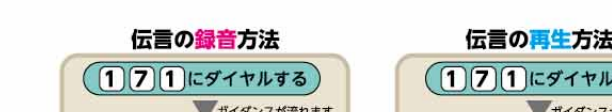
災害用伝言ダイヤル

これは、被災地域内やその他の地域の方々の「声の伝言板」です。

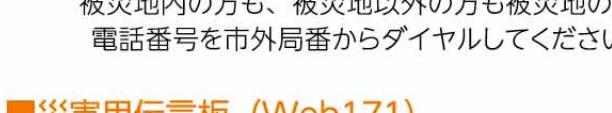
ご利用方法

■1711をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
■録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞かれます。
■提供開始や録音件数等、提供条件についてはNNTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

伝言の録音方法



伝言の再生方法



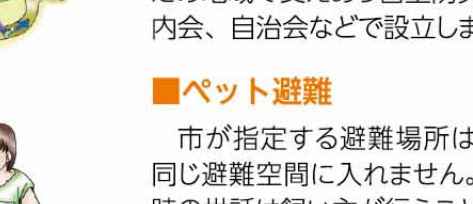
被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

■災害用伝言板(Web1711)
災害用伝言ダイヤルに準じて開始されます。パソコン、スマートフォンなどで利用できます。

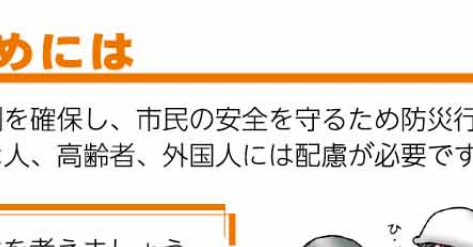
■携帯電話 災害用伝言板サービス
大規模災害発生時に、携帯電話・スマートフォンを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。

それぞれの携帯電話 スマートフォンの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。他社携帯・スマートフォンおよびパソコンからでも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

■自主防災組織に参加しよう
「自分たちのまちは自分たちで守る」ため地域で支えあう自主防災組織を町内会、自治会などで設立しましょう。



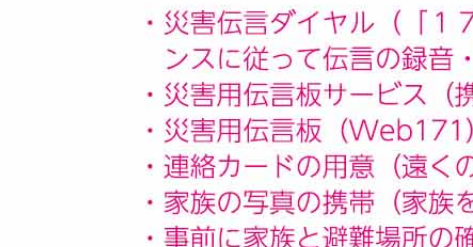
■ペット避難
市が指定する避難場所は、ペットは人と同じ避難空間に入れません。また避難生活時の世話は飼い主が行うことになります。日頃からペットのしつけなどをしておきましょう。同行避難の際はケージに入れて、リードにつなげるなどの必要があります。



■家族の安否の確認は？
災害時に離れている家族との連絡先として、速くの親戚など、事前に家族内で決めておきましょう。
また、NTTの災害用伝言ダイヤル等を活用することで、安否などに関する伝言を録音、再生することができます。



■家族の安否の確認は？
災害時に離れている家族との連絡先として、速くの親戚など、事前に家族内で決めておきましょう。
また、NTTの災害用伝言ダイヤル等を活用することで、安否などに関する伝言を録音、再生することができます。



■帰宅グッズを揃えよう
職場で被災し徒歩で帰宅することを想定して、職場に帰宅グッズを揃えておきましょう。



緊急地震速報

緊急地震速報

地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れの後、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を予測し、大きな揺れのS波が来る数秒から数十秒前に発表するものです。震度4以上の揺れがあると予測された地域に、テレビやラジオを通じて気象庁が発表します。この緊急地震速報は、震源の近くでは大きな揺れに間に合わないこともあります。予測震度で、プラスマイナス1程度の誤差もあります。わずかな時間を活かし、地震の被害を減らすことができるものとして、開始されました。



防災行政無線での情報提供

災害発生時には、いち早く情報を得て、わずかな時間で身を守る行動をとることが大変重要です。
市でも、防災行政無線で防災・防犯情報を放送していますが、聞き逃してしまつたことなどは、以下の方法で放送内容を確認できます。

防災・防犯情報のメール配信サービス

災害・防災・防犯情報のほか、防災行政無線で放送した内容を配信しています。

【登録方法】
パソコンの場合は下記のURLから登録。
携帯電話の場合は下記の仮登録用アドレスまたはQRコードから空メールを送信。

■パソコン用 <https://hp.wbi.jp/satte-bou/join.html>
■携帯用 satte-bou@wbi.jp
(通信料は利用者の負担となります。)

■テレホンサービス
0800-800-3541(通話無料)

■市ホームページ
市ホームページ(<https://www.city.satte.lg.jp/>)にも放送内容を掲載しています。



わが家の防災メモ

わが家の避難場所

わが家の集合場所

家族の連絡先

親戚の連絡先

災害時の連絡方法

■NTT 災害用伝言ダイヤル(171)
電話を利用して情報を確認する「声の伝言板」です。録音は1、再生は2にダイヤル。

■NTT 災害用伝言板(web171)
インターネットを利用して情報を確認する「文字の伝言板」です。

■携帯電話・スマートフォンの災害用伝言板
携帯電話各社の携帯電話から伝言を文字入力できます。伝言の確認はインターネットでも可能です。右の二次元コードから各社の伝言版にアクセスできます。

■備蓄品
備蓄品は、電気・ガス・水道などのライフラインが復旧するまで自給自足するのに必要です。最低でも3日間(推奨1週間)必要な食料・物資を用意しましょう。

災害に備える食料・物資

■飲料水・生活用水
3日分の飲料水の備蓄(1人×3日×30)
水筒(1人×1個)
生活用水の確保・風呂水の溜め置きなど

■食料品等
3日分の食料の備蓄
非常食(レトルト食品、缶詰など)
携帯食(あめ、チョコレートなど)
乳幼児・子ども(離乳食や粉ミルク・液体ミルクなど)、その他病人の治療食など

■衣類・衛生用品
衣類、手巾、マスク
簡易トイレ
ティッシュ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー
生理用品

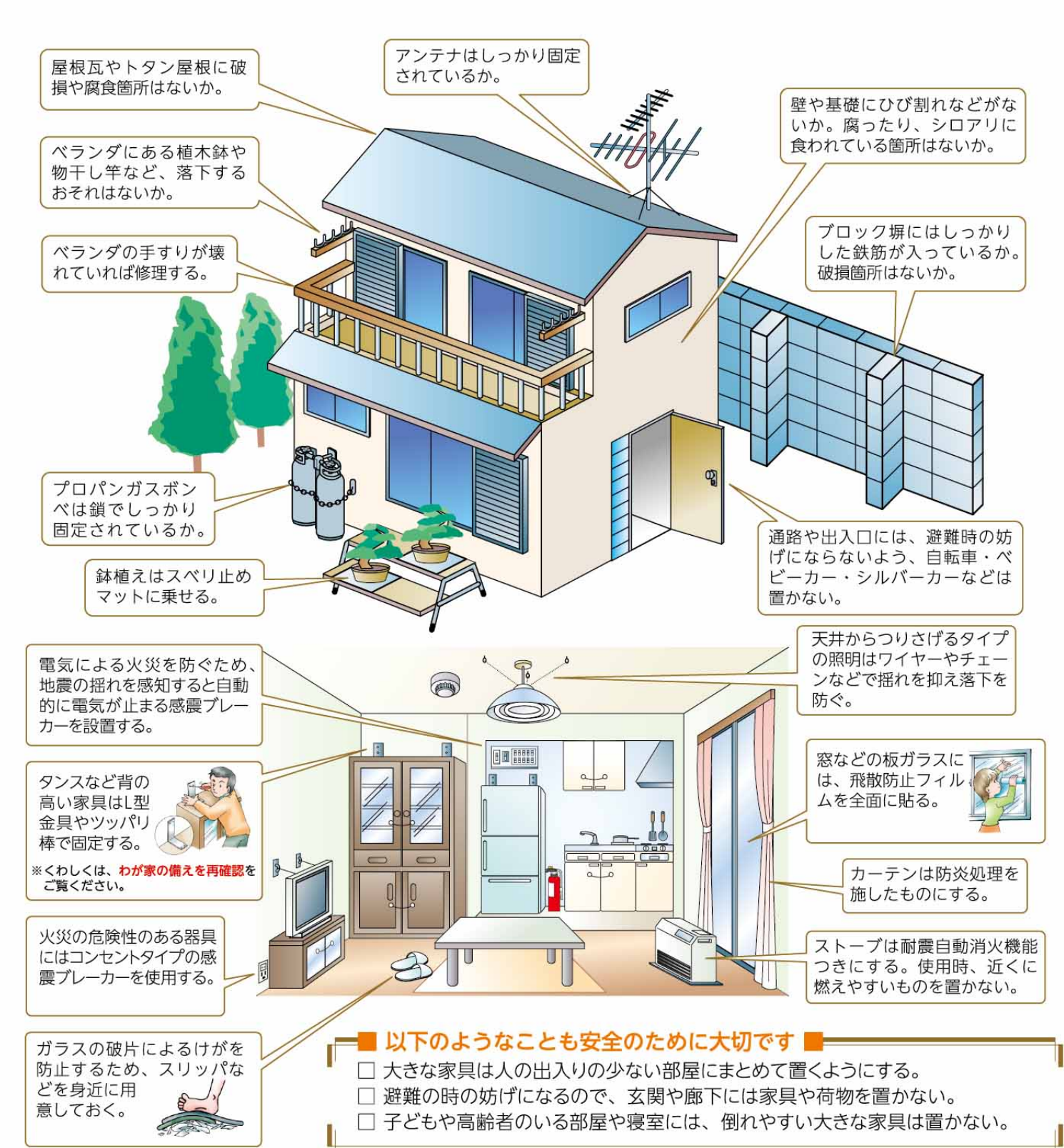
■その他
アウトドア用品(寝袋、防潮布、ランプ等)
防水布、ランプ等)
ヘルメット
マーカーペン、筆記具
レインコート
スニーカー
ペット用品(ケージ、リード、食料など)
障がい者支援用パナダ(社会福祉課で配布中。市内在住で障がい者手帳の交付を受けている方)

■非常用持出品
非常用持出品は、災害発生直後から1日間をしのぐために最低限必要なものです。上記の備蓄品などのほか、現金、通帳・印鑑、本人確認書類(健康保険証・免許証など)など、必要なものを持ち出すようにしておきましょう。

■感染症対策用品
マスク
消毒液
体温計

家庭でもう一度安全点検

地震対策は行政だけできるものではありません。個人の生命や財産を守るためには、皆さん一人ひとりが、あるいは家族が協力して日頃から備えておく必要があります。建物やそのまわりにあるもの、家の中の家具やガラスなど地震に対する安全性についてチェックし、補強や配置換えなどをおこなってください。



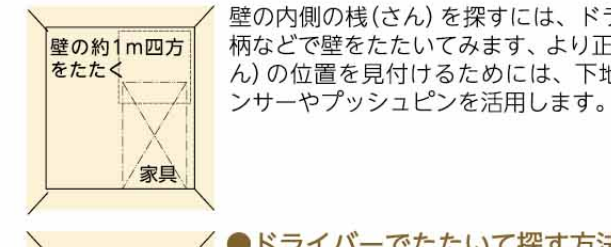
住宅の耐震診断・改修補助制度

幸手市では、地震などの災害に強いまちづくりのため、住宅の耐震性能の向上を目的とした耐震診断または耐震改修工事の補助制度があります。

問い合わせ先
幸手市建築指導課
TEL 0480-43-1111(代)

わが家の備えを再確認

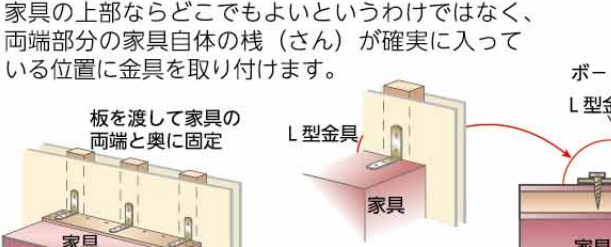
固定できる壁の探し方



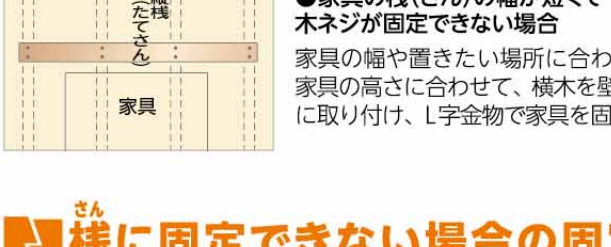
家具の配置にも工夫を



壁の柱と家具の柱をL字金具で固定



壁に固定できない場合の固定方法(壁の中に柱がなく、やむを得ない場合)



■壁に固定できない場合の固定方法(壁の中に柱がなく、やむを得ない場合)
突っ張り棒タイプのものを利用するには、天井に家具を支えるだけの耐力がないと危険です。しっかりとした天井では、家具の側面と30度以下の角度でピンと張りつける。たるみがあると効果はありません。



引用：地震による家具の転倒を防ぐには(勤務者援助センターホームページ)